

第1回「日本のクルーズ市場の持続的発展に向けた有識者検討会」

議事概要

日時：令和7年2月21日（金）13:00～15:00

場所：中央合同庁舎2号館 国土交通省第2会議室A

議事：事務局資料を踏まえ、論点等を議論。委員からの主な発言は以下のとおり。

【主な発言】

- ・世界のクルーズ産業は3200万人、32兆円という大きな市場規模にあるが、日本は追いついていない。検討会で日本のクルーズ産業をどう成長させるかを議論し、提言をまとめたい。
- ・滞在に着目した新たな主体の船舶については、1980年代から登場した小型船で、イベントが多くなく、船の旅を楽しむ人が対象の「ブティッククルーズ」があり、これは日本人に定着しやすい分類。大型船とブティッククルーズの双方で追求するのがよい。
- ・米国西海岸では土曜日出発の3泊4日の商品があり、学生の4人部屋等の利用が見られる。これは日本ではあまり見られない光景。
- ・検討事項の「クルーズ未経験者等に対する訴求方策」と「観光立国と両立したクルーズ市場の発展のあり方」が特に重要。検討に当たり、世代別に市場調査が欲しい。
- ・「印象的な寄港地がない」との回答が65%を占めたとのアンケート結果があるが、造成側の立場では、寄港地は重要な要素。寄港地で花や祭り等を楽しめるようにしている。リピーターが多いと、寄港地への関心が薄れることもあるのではないか。
- ・ワンナイトクルーズについては、コロナ禍の際に乗客への負担が大きいため造成を止めた経緯があるが、2泊の商品が意外と売れ、そちらに移行している状況。アンケートを見ても、1泊の満足度は低く、2泊以上がよいのではないか。
- ・クルーズの初心者向けに1泊商品があっていいと思う。公的機関がチャーターして実施してみるのも一案。船会社にとっても、回送便で1泊商品を造成できればメリットがある。
- ・カジュアルクラスのクルーズを運航している海外船社や日本代理店の意見を聞く機会を設けたらどうか。
- ・世界のクルーズ市場の8割はカジュアル層であり、日本でも市場を拡大するのはカジュアルクルーズだと思うが、魅力がまだ伝わっておらず、議論が重要。
- ・日本籍のクルーズ船の普及により、船員等の活躍の場が広がる、と資料に記載があるが、外国籍船でも、日本人乗客への通訳等の活躍の場が広がる等のメリットがあるのではないか。乗船者の99%が外国人観光客の日本発着クルーズに参加したが、ガイドの英語力の問題が大きく、うまく消費につながっていない場面が見受けられた。
- ・日本のクルーズ船はすでに搭乗率が高く、クルーズ人口を増加させる余地がない。現状では、外国のクルーズ船を誘致しなければキャパシティは増えない。
- ・インバウンドについては250万人という目標値（観光立国推進基本計画）があるので、日本人のクルーズ人口についても目標値を設定できるといい。
- ・日本のクルーズの持続的な発展に則した場合、クルーズ人口だけにこだわると、1泊の方が

人口は増やせるが、趣旨と違ってくるのではないか。

- ・例えば、国内短期、国内長期、海外、フライ&クルーズ、あるいはカジュアルとそれ以外、等のセグメント別に達成可能な目標人数を立て、それぞれ対策を考えたらどうか。人数×日数、で目標値を設定する方法もある。
- ・TikTok や YouTube 等でクルーズ船が港にある景色が見られれば、そこに行ってクルーズ船に乗りたい需要が高まると思う。例えば、築地に船が泊まれば関心が高まるのではないか。
- ・販売の観点では、旅行商品にクルーズを組み込む、という逆の発想も考えられる。また、販売店はクルーズターミナル等、意味あるところに出店し、観光案内や乗客ニーズの汲み取り等を行えると有益であり、ソフト面で支援があると助かる。小規模でも情熱のある専門事業者の育成もポイント。
- ・訪日外国人はリピーターが多いので、クルーズ船での受入に親和性がある。
- ・クルーズ旅行にファミリー層の需要を感じており、学校の休みに合わせた商品があるとよい。Wi-Fi 設備が十分でないので、充実できればリモートワーク層も取り込める。
- ・非購買者に訴求できる商品もあるが、情報提供が足りていない。クルーズの潜在顧客層の開拓や若年化のため、SNS を活用し、既成概念の払拭に努めている。市場拡大にはマスマーケットの取り込み、すなわちカジュアルマーケットの獲得が必要。クルーズ旅行は手が届かないとして、調べもしない人に対し、いかにリーチしていくかを議論したい。
- ・クルーズを、海上物流と海洋開発に次ぐ第3の海事クラスター、すなわちクルーズを核に、観光・交通・食材・エンタメ等の関連産業、船員に加えてホテル・エンタメ要員、造船・船用工業には大規模な内装・空調業も含まれ、裾野の広い産業育成に貢献できる、と展開するのはどうか。クルーズ客船のホテル部門の従業員数の調査があるとよい。